

ロシア 東欧 経済速報

(社) ロシア東欧貿易会

2005年（平成17年）4月15日号 No. 1326

目次

● 2004年のCIS諸国の経済(上)	1
● エトセトラ	11
『調査月報』2005年5月号のご案内 / 11	
新刊案内『中央ユーラシアを知る事典』 / 11	
● ロシア東欧貿易会関連の行事予定	12
● CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	12

2004年のCIS諸国の経済(上)

はじめに

CIS諸国の2004年の経済データが出揃ったので、本誌では今回と次回の2回に分けて、CIS統計委員会発表の統計データを紹介しつつ、それを踏まえながら各国の最新の経済情勢についてレビューすることにする。本号では、全12カ国の主要経済指標を表にまとめて掲載するとともに、CIS全般、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、モルドバについての解説をお届けする。中央アジア諸国（カザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、トルクメニスタン、タジキスタン）および南コーカサス諸国（アゼルバイジャン、アルメニア、グルジア）のレビューは次号で扱う予定である。

CIS全般：持続的成長に向けた正念場の時期の到来

ソ連時代との比較 CIS統計委員会の2005年2月の発表によると、2004年のCIS経済（データのCIS統計委員会への提供がなかったウズベキスタン、トルクメニスタンは含まれない）は、GDP成長率が8%増（2003年が7.8%）、鉱工業生産が7%（同8%）、小売商品売上高13%（同10%）、固定資本投資が14%（同16%）と前年に引き続き高い成長を記録し、アゼルバイジャン、アルメニア、ベラルーシ、ウクライナ、タジキスタンが10%を超える成長を記録した。長期的トレンドで見ると、GDPのレベルは、CIS全体としては、ソ連解体前のほぼ8割前後に